

CAMPUS 八戸学院

vol.79

各地で防災意識高まり、増える防災士
～助けられる人から助ける人へ～

2026夏 思い出のアルバム

～ドキドキ・ワクワク・キラキラ笑顔～
みんなが主役の運動会



第33回八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペを開催！



ホールインワンを達成した工藤様



熊谷八戸市長より感謝状をいただきました(8/26)

令和8年7月24日(金)、「第33回八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペ」が八戸カントリークラブで開催され162名が参加し、八戸プラザホテルアーバンホールで行われた懇親会・表彰式にも多くの方々が出席しました。

参加費を含めた収益金は、「令和7年青森県東方沖地震に係る支援」として八戸市へ寄付されました。法官大会長から目録を受け取った八戸市危機管理部長の三浦隆亨様は、「皆様からの温かいご支援を八戸市の防災対策事業の充実に役立てたい」と述べられました。

また、参加者の工藤幸雄様がコンペ初となるホールインワンを達成するという歴史的な快挙もあり、会場は大きな歓声と拍手に包まれ、大いに盛り上がりました。



懇親会・表彰式の様子

CONTENTS

- 3 第33回八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペを開催！
- 4 各地で防災意識高まり、増える防災士
～助けられる人から助ける人へ～
- 6 2026夏 思い出のアルバム
- 8 八戸学院野辺地西高校
野西高組が魅せた感謝の運行「のへじ祇園まつり」
- 10 八戸学院TOPICS
- 14 ステラが行く
- 15 ステラ・フォーカス
- 16 ～ドキドキ・ワクワク・キラキラ笑顔～
みんなが主役の運動会
- 18 理事長散策

CAMPUS 八戸学院

vol.79



表紙『八戸三社大祭』

およそ300年の歴史を持ち、国重要無形民俗文化財である「八戸三社大祭」に、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部の学生37名が参加しました。

学生たちは、開催2日目の運行において白山台山車組の引き子を体験。伝統あるお祭りの熱気を肌で感じる、貴重な一日となりました。

建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

野西高 令和8年度青森県高校総体スローガンで優秀賞を受賞【6/5】

第79回青森県高等学校総合体育大会スローガンで優秀賞を受賞した山本陸人さんの表彰が開会式で行われました。受賞した山本さんの感想です。

【受賞スローガン】 「歩み続けたその先に 叶う想い 刻む栄光」

スローガンを考える時に、「自分自身がこうありたい」という自身の理想を込めながら言葉を選び、当てはめていきました。今回、優秀賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。所属しているサッカー部でも努力をして全国大会に出場し、スローガンのような願いをチーム全員で達成して、競技の歴史に学校の名前を刻めるように頑張りたいと思います。

2年1組 山本 陸人



- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学むつ下北キャンパス
TEL 0175-33-4190
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター
八戸学院健康・スポーツ科学研究所
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院光星高等学校 通信制課程
TEL 0178-47-5116
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>



各地で防災意識高まり、増える防災士 ～ 助けられる人から助ける人へ～

防災士とは

防災士制度は、平成7年の阪神・淡路大震災の教訓から生まれました。大規模災害では、行政による救援に加え、一人ひとりが自ら備え、地域で助け合う力が欠かせません。こうした考えのもと、平成11年に制度の検討が始まり、平成14年に日本防災士機構が設立されました。平成15年9月に第1回資格取得試験が行われ、同年10月、216人が初めて防災士として認証されました。その後、養成の輪は全国へ広がっていききました。

防災士の資格は、災害から自分と家族の命を守る「自助」、地域や職場で助け合う「共助」、行政・企業・防災機関などと連携する「協働」を基本理念に、防災・減災に必要な知識と技能を身につけたことを証明する資格です。

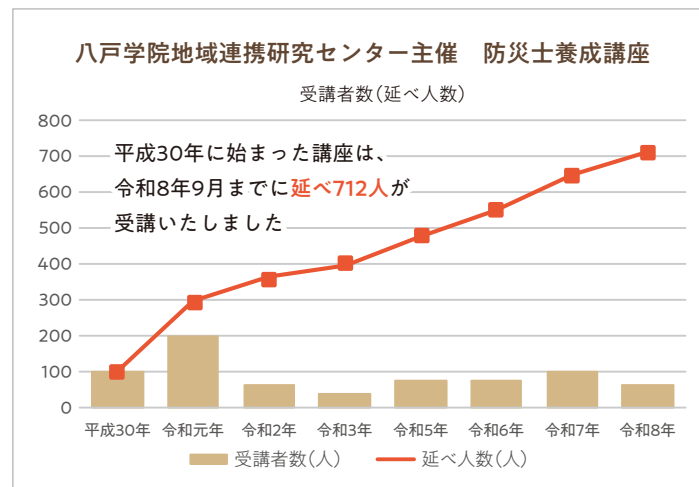
平時には防災訓練や日頃の備え、地域の防災活動を進め、災害時には避難誘導や避難所運営など、それぞれの立場で地域の安全を支える役割が期待されています。

防災士養成講座のはじまり

平成30年4月1日にBOSA I推進室が八戸学院地域連携研究センター内に設立されました。推進室では、

- 1 防災士の養成
- 2 防災訓練・地区防災計画の策定支援
- 3 学校等における防災教育の推進
- 4 本学学生ボランティアの養成
- 5 避難所運営教育の実施
- 6 国外の災害と災害支援を通じた国際理解教育の実施
- 7 健康リスクコミュニケーション
- 8 災害に強いまちづくり支援

という8つの機能を持ちながら、特に防災士の育成について力を入れることとなりました。



むつ市と大学が、防災士の養成及び育成に関する協定を締結

八戸学院大学とむつ市は7月3日(金)、地域における防災力向上を目的とした協定を結びました。防災士の養成及び育成に関する連携を行っていきます。むつ市役所本庁舎危機管理センター内の災害対策本部室で行われた締結式で、本学の小林眞学長とむつ市の山本知也市長が協定書に署名しました。

むつ市での防災士養成講座初開催！

7月11日(土)・12日(日)、下北文化会館でむつ市では初となる防災士養成講座が開催されました。災害発生のしくみや3つの基本理念(自助・共助・協働)、救急救命講習などを2日間にわたり学びました。講座の最後には防災士資格取得試験を行い、むつ市内の中学生1名を含む60名が合格しました。



むつ市長 山本 知也氏

防災のリーダーとなる市民が増えることは、非常に防災力が高まると思う。市としてもできる支援を続けていきたい。



八戸学院大学 学長 小林 眞

狙いは「地域の防災力向上」。自治体と組んで協定を結び、連携をしてやれるという形ができたことはすばらしい。



八戸市での防災士養成講座

11月7日(土)・8日(日)、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部を会場に「第14回防災士養成講座」を開催します。

大船渡市での防災士養成研修

大船渡市の要請を受け、12月12日(土)・13日(日)、三陸公民館を会場に「防災士養成研修」を開催します。



八戸学院大学
地域共創学部
地域共創学科
特任准教授
井上 丹

防災士の養成に取り組んで

いまの大学生は、地域社会とつながりを持つという意識も、何から始めればよいかわからないという課題があります。そこで防災活動が一つのきっかけになればと考え、本学で防災士養成を開始しました。

防災を学ぶ時は、地域のことを詳しく知り、どうすれば良いかを考えます。防災知識を身につけた学生が、地域の人たちとつながり活動していけば、地域の活性化につながると思っています。そしてエネルギーある学生は、災害時にたくさんの人を助けられる可能性も持っています。



八戸学院
地域連携研究センター
センター長
福田 弥夫

防災士の養成とセンターの役割

地域連携研究センターが、これまで青森県における防災士養成に果たしてきた役割は大きいと思います。大規模自然災害の発生時のみならず、平時の備えや防災意識の向上などへの貢献も期待されています。

今後も関係機関等と連携しながら、防災士のスキルアップ講座などを定期的に開催し、北東北における防災教育及び研究の拠点としての機能向上を目指したいと考えています。

八戸学院 幼稚園

「星の子祭」
催し物がたくさん!



海のフォトブース

うちわ作りコーナー

先生と一緒に盆踊りしたよ

聖アンナ 幼稚園

「年長児園外保育」



電車で鮫駅に到着!

国の天然記念物「燕島」で記念撮影

お友だちも海の生き物に!!

第二 しののめ 幼稚園

「園内活動の様子」



かっこいいカブトムシ

園庭でボディペインティング

きゅうり大好き!

こんな思い出も...



海でカニ釣りに挑戦

夏といえばスイカ割り!

夏の風を感じながらシャボン玉あそび

八戸学院野辺地西高等学校「お祭りに参加」



※詳しくは、特集ページを
ご覧ください(P8-9)

のへじ祇園まつり

2026 夏 思い出のアルバム

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部「ボランティア活動・引き子体験」



八戸小中野祭り

八戸七夕流し踊り

八戸三社大祭

八戸学院光星高等学校「熱中症対策講座」

6月2日(火)、本校体育館において、普通科スポーツ科学コースの生徒を対象に熱中症対策講座が行われました。講師に大塚製薬株式会社東北支店青森出張所の中島義文氏をお招きし、熱中症に対する危機管理意識の醸成と、命を最優先する実践的な行動ができるようになることを目的に、熱中症に対する正しい知識と予防行動を学びました。

また、同社が主催した「熱中症対策標語コンテスト」の表彰式も行われ、最優秀賞や学校長賞、大塚製薬賞などの受賞者とその標語が紹介されるなど、暑くなる前に熱中症について考える良い機会となりました。



- 【最優秀賞】マイボトル 家族の分も 詰める朝
2年F組 佐藤 大雅
- 【優秀賞】サボリじゃない ヤバいの前に すぐ休憩
1年F組 久慈 夢来
- 【学校長賞】水分補給 守る命と 家族の笑顔
2年F組 長谷川 蓮
- 【大塚製薬賞】暑い日は 気づく心が 家族愛
2年E組 佐藤 璃介

9

短 大 「八戸小唄流し踊り」に参加しました！ [7/17]



八戸市中心街で開催された「八戸小唄流し踊り」に、本学こども教育学科・介護福祉学科の1・2年生と教員、総勢159名が参加しました。

当日は、色鮮やかな浴衣に身を包み、お揃いの手ぬぐいとうちわを手に踊りを披露しました。はじめは緊張した表情も見られましたが、次第に弾けるような笑顔が溢れ、息の合った素敵な演舞を繰り広げました。沿道の観客の皆様から大きな拍手が送られ、学生たちは深い達成感に包まれていました。

沿道から温かいご声援をいただき、誠にありがとうございました。来年度も皆様に素敵な踊りをお届けできるよう、しっかりと準備を進めてまいります。

地域のお祭りに参加できたことをうれしく思います。友達と一緒に参加したことで、緊張しながらも楽しく踊ることができました。流し踊りの練習は大変でしたが、本番では多くの人が応援してくれたので頑張ることができました。踊り終わった時はほっとして、みんなで飲んだ冷たい飲み物がとてもおいしく感じられました。日本の文化に触れることができた貴重な経験になりました。

介護福祉学科1年 セルサ・オリフィア

短 大 豊かな自然を生かした実践的学び「砂浜彫刻」に挑戦！ [6/19]

本学こども教育学科の学生が、地域の自然を生かした実践的な学びの一環として「砂浜彫刻」に取り組みました。当日は恵まれた天候のもと、ゼミごとに分かれて作業を開始。今年度のテーマ「子どもが喜ぶ〇〇」に合わせ、パースデーケーキや人気キャラクターなどを表現しました。学生たちは貝殻や流木をあしらうなど試行錯誤を重ね、全員で協力しながら作品を完成させました。



大 学 インターンシップマッチング会 [6/10]

学生が県内企業や仕事に対する理解を深めることを目的として、インターンシップマッチング会を開催しました。

当日は33名の学生が参加し、15社の企業ブースを回りながら、企業情報やインターンシップの内容などに耳を傾けていました。参加した学生にとっては、就職活動を視野に入れるとともに、県内企業の知見を深める有意義な機会になりました。

この取り組みは、青森県の県内定着促進事業の一環であり、今後も「社長秘書体験」や、学生の視点で県内企業を取材する「学生リポーター活動」などが予定されています。



大 学 「物流関連企業見学ツアー」に参加 [7/9]

八戸市が主催する学生向けの「物流関連企業見学バスツアー」が開催され、本学の学生9名が参加しました。

このツアーは、八戸地域の物流現場への理解を深めるために企画されたもので、学生たちは八戸貨物駅(日本貨物鉄道株式会社)や八戸港フェリーターミナル(川崎汽船株式会社)など4ヵ所の物流関連企業を巡り、業界の現状を学びました。

参加した学生からは「日常の暮らしを支える物流の重要性を実感した」などの感想が聞かれ、実りある見学会となりました。



大 学 国際ロータリー第2830地区が教育連携協定を締結
～地域未来の人材育成へ、秋学期より実務家による寄付講座を開講～ [7/22]

本学と青森県内をエリアとする国際ロータリー第2830地区は、奉仕の理念の浸透と大学教育の充実、そして地域社会の発展と人材育成への貢献を目的とした「教育連携に関する協定」を締結しました。学生会館で行われた締結式では、小林 眞学長と成田俊介ガバナーが協定書に署名を取り交わしました。

本協定に基づき、令和8年度秋学期(9月中旬～)より、本学地域共創学部地域共創学科の2年生以上を対象とした寄付講座「金融経済論(サブタイトル: けっぱれ金融経済論)」が開講されます。講座は全15回(週1回・各90分)実施される予定で、県内のロータリークラブに所属する企業の経営者や実務家が講師として登壇し、第一線の知見や最新の専門分野について講義を行います。

締結にあたり、小林学長は「企業の第一線で活躍する方の生の声を聞く貴重な機会にしたい」と期待を寄せ、成田ガバナーは「学生にリーダーシップの大切さを学んでほしい」と抱負を語りました。なお、同地区による県内大学との連携協定締結は2例目となります。

今後、具体的な開講日程や講義内容の協議を進め、地域の未来を担う実践力豊かな人材の育成に取り組んでまいります。



野西高 硬式野球部、最後の夏 [7/8・14]

第108回全国高校野球選手権青森大会に、本校硬式野球部の4名が上北連合チームの一員として出場しました。4名全員がチームの主力としてスターティングメンバーに名を連ね、1回戦は柏木農業高校と五所川原工科高校の連合チームに2対1で勝利しました。9回1失点10奪三振と力投した一ノ渡波琉斗さんは、「踏ん張るピッチングができた。競り勝つことができて嬉しい」と連合チームとしての価値ある1勝に頬を緩めました。2回戦は惜しくも敗れましたが、「八戸学院ひばり野西高校」へ校名変更前の最後の夏に、力を合わせて奮闘する姿は多くの感動を与え、多数のマスコミにも取り上げていただきました。



野西高 環境美化活動でマリーゴールドを植栽 [6/9]

「花で笑顔の輪を広げよう！プロジェクト」の一環として、今年も野辺地町ロータリークラブ様よりマリーゴールドの苗をいただきました。1年次とロータリークラブメンバーの方々と合同で植栽作業を実施し、色鮮やかなマリーゴールドが植えられたプランターを生徒玄関前に並べました。設置後も1年次を中心に水やりを当番制で実施しています。生徒からは「水やりや雑草取りを継続して、来校者の方にきれいな花を見ていただきたい」という声がありました。野辺地ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございました。



今回の環境美化活動を通して、友人と協力することや地域の方々と交流して環境の大切さを学ぶことができました。朝の登校時に生徒玄関前の花が目に入ることで、一日の雰囲気や気分を良くする効果があると思います。みんなで植えた頑張りを思い出しながら日々の学校生活を頑張っていきます。

1年2組 立花 愛絆

野西高 防災教室でいざという時の知識を深める [6/16]

八戸学院大学地域共創学部特任准教授の井上 丹先生を講師にお招きし、「災害の被害に遭わない心構え」をテーマに防災教室を実施しました。講義の中では、地震などの身近な災害に備えるために、ワークシートを活用しながら「その時どうする？高校生の防災判断力チャレンジ」に挑戦しました。生徒たちは、災害時に最初にとる行動や防災持ち出し袋の中身についてなど、ワークを通していざという時の知識を深めることができました。また、講義の中で紹介された「防災士」の資格について、八戸学院大学の養成講座を受講してみたいという意欲的な声も多く聞かれました。



光星高 命の尊さを学ぶ性教育講演会を実施 [7/6]

命の尊さと性に関する正しい知識を得ることを目的に、性教育講演会が行われました。講師に、苫米地レディースクリニックの苫米地 怜先生をお招きし、多感な時期を迎えた1年次を対象に、心身の機能の発育発達や、性感染症の予防と子宮頸がんワクチン接種の重要性や自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を育むことが大切であることを性の違いから学びました。講演を聞いた生徒からは、「中学校で学んだ知識を更に深めることができた。ワクチン接種について家族と相談し、自分の身体を大切にしたい。」や「大人になる準備として、性に対するリスクや相手の気持ちを理解し、適切な判断ができるようになり、将来パートナーが不安を抱えている時に、支えられるような人間になりたい。」などの感想がありました。

今回の講演会は、現在の思春期という発達段階における自分の体と健康について、科学的な知識と倫理的な面や人間関係の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。



光星高 3年次を対象にした進路ガイダンスを開催 [6/30]

3年次を対象とした進路ガイダンスが開催されました。普通科の生徒は、興味のある進路先を2つ選択し、将来の自分のあるべき姿について研修をしました。また、オンラインガイダンスでは、愛知県や大阪府、北海道等の大学の説明を熱心に聞いている生徒の姿が印象的でした。保育福祉科の進学を希望する生徒は、八戸学院大学短期大学部の先生方から受験の流れなど専門的な説明を受け、系列校進学の情報を知得することができました。就職希望者は、市内の企業で人事を担当している方から志望理由書の書き方や、面接のポイントについて講義を受け、自衛隊希望者は、現役の自衛官の方から実践問題の演習について解説をしていただきました。

生徒たちは自分の進みたい上級学校や専門分野の先生や担当の方々の説明を熱心に聞き、約50のブースで積極的に対話する姿が見られました。



私が希望する大学の入試課の方と直接お話ができ、これからの学習計画にとっても大きな流れができました。小論文の過去問を見ながら直接アドバイスをいただき、大学受験に対する心構えが高まったと同時に合格に向けての方向性が見えてきました。

3年L組 菅原 真心粋

光星高 PTAの一声運動、挨拶の習慣化とマナーアップ [6/23・24]

PTA会員の皆さまのご協力により、朝の一声運動が行われました。今年も朝の忙しい時間帯に多くの会員の皆さまにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。声をかけられた生徒たちは、普段とは違う光景に戸惑いながらも、笑顔で挨拶を交わしていました。1日のスタートが挨拶から始まる習慣が確立することで、明るく笑顔あふれる学校になっていくことを願っております。また、会員の皆さまが生徒の登校時に安全な見守りをするすることで、マナーの向上にもつながっています。家庭と学校が連携したこの取り組みが、生徒を育む効果的な活動となりました。



八戸学院第二しののめ幼稚園

水遊びのリクエストは「ウォーターバトル」



暑い日が続く中、水を浴びて元気を取り戻す子どもたち。プールの水が温かくなると、温泉みたい！とリラックスしながら水に浸かる日もありました。

親子レクリエーションで行ったウォーターバトルが楽しかったようで、また、やりたい！のリクエストに応え、今年度のプール遊びは子どもたちが持参した水鉄砲で、「ウォーターバトル」を繰り広げています。お友だちとのバトルだけでなく、子どもたちが力を合わせて先生たちにもたくさん水攻撃をする場面も！

今年の夏は、大人も子どもも全力で水遊びを楽しみました。



ステラ・フォーカス



令和8年8月20日(木)・21日(金)、京都華頂大学・華頂短期大学において、一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催で開催された第17回幼児教育実践学会に参加し、「子どもの育ちに適った運動環境」に関する研究発表を行いました。



この学会は幼児教育の実践を豊かにし、幼児教育の有用性を社会に示すことで、子どもの育ちが最優先される社会が実現されることを目指して平成22年にスタートし、回を重ねる度に参加者が増え、今回は全国から954名の参加がありました。

八戸学院聖アンナ幼稚園からは山西園長と教員4名、共同研究者で八戸学院大学短期大学部こども教育学科の差波直樹教授と本吉好准教授の総勢7名が参加。法人内職員に対する学術研究等の助成を目的として交付するイノベーションプログラム(基金)研究等補助金を得て、令和7年度から進めてきた研究の成果を発表することが出来ました。今回の研究では「子どもの育ちに適った運動環境を考える」をテーマとし、問題提起として日常の園内環境を整えることに力を注ぎつつも運動面に関する環境整備の難しさを感じていること、幼児期に育みたい基本動作を体験できる環境を探っていること、住宅街に立地する園舎・園庭にどのような可能性があるのかを共に語り合いたいことを掲げました。

発表は本吉准教授の「園内活動における基本動作の分析」から始まり、園内及び園庭の各所に設置した定点カメラの

八戸学院聖アンナ幼稚園

『イノベーションプログラム(基金)研究等補助金の交付を得て』

「研究そして学会発表」

映像から、子どもの動きを分析する方法及びその結果がグラフや表で示されました。続いて本園の教員から、分析結果から環境への議論を重ね、シンブルで発展性のある「やぐら」を考案して設置したことにより、子どもたちの活動にどのような変化があったかを発表しました。その後は差波教授の進行で参加者とのディスカッションが行われました。私たちの分科会には北海道から沖縄まで全国各地から43名の参加があり、各園における運動環境の工夫や取り組みなどについて活発な意見交換の場となりました。



令和7年度から取り組んできた研究、そして学会発表は終了しましたが「子どもの育ちに適った運動環境を考える」とを今後も継続してまいります。

八戸学院幼稚園

ワクワク、ドキドキのお泊まり会！

今年度も7月25日(土)・26日(日)の二日間の日程で、年長クラスのお泊まり会を実施しました。当日は雨が心配な空模様でしたが、集合時には心配顔の園児も含めてみんな元気に登園してきました。



今回も盛りだくさんの体験プログラムを用意し、まずは夕食のカレー作りです。園児たちは、お米を研いだり、材料を切ったり、「美味しくなあ〜れ」の魔法の言葉を唱えながら、一生懸命頑張っている様子でした。

また、研いだお米を飯盒に入れ、パパ親クラブのお父さんが悪戦苦闘しながら、美味しいご飯を炊いてくれました。その後、種差少年自然の家の先生の指導による「木の実のキャンドルスタンド」の制作です。園児たちはお話をよく聞きながら熱心に取り組み、完成したスタンドのロウソクに火を灯すととてもきれいで、みんなキラキラした目で眺めていました。

ほかにも恒例の鍛冶町附祭若者連の山車小屋訪問とお囃子体験、スイカ割り体験や花火大会、そしてフワフワお化けやミイラ男に遭遇した幼稚園探検など、多くの思い出ができたようです。



八戸学院聖アンナ幼稚園

音がする？南極の氷の不思議



その後、氷をじっくり観察しました。見た目は普通の氷より白っぽく、手で触れるとツルツルとしています。グラスに水を注いで、その中に南極の氷を入れると、パチパチと小さな音が聞こえました。「なんで？」と不思議がったり「炭酸みたい！」と驚いたりする子どもたち。南極の氷は、長年降り続いた雪が押し固められてできたもので空気を多く含んでいるため、水の中に入れて氷が解ける時に閉じ込められていた空気が外に弾け出る音だと子どもたちに伝えました。

これからも子どもたちの好奇心を大いに刺激するような、ワクワクする体験との出会いを大切にしていきたいと思えます。



～ドキドキ・ワクワク・キラキラ笑顔～

みんなが主役の運動会



サッカーボールで全部倒せるかな？



ゴルフって、なかなか難しい…



作戦どおり積み上げるよ！



お父さんやお母さんと仲良くフォークダンス

八戸学院
聖アンナ幼稚園

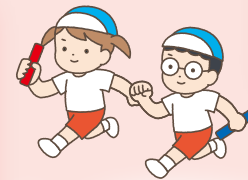
6/6
土曜日

「元気いっぱいガンバルぞ、エイエイオー！」

園庭で開催予定でしたが、あいにくの雨のため園内でレクリエーションを行いました。さまざまなゲームでシールラリーを楽しんだほか、年長児による「箱積み競争」では、作戦を立てながら高く高く箱を積み上げて競い合いました。園内をいっぱいに使い、園児をはじめ保護者の皆様、ご祖父母様、ご兄弟姉妹の皆様と、みんなで大いに盛り上がった一日となりました。



年長リレー「絶対負けないぞ！」



八戸学院幼稚園

6/20
土曜日



バルーン競技「花火」大成功！！



組体操、かっこよく決まったね！



パパ・ママたちも追いつけ追い抜け～！



運動会の朝、ドキドキの表情でグラウンドに集まった子どもたちでしたが、すぐにキラキラ笑顔に早変わり！張り切って競技に向かう子どもたちの姿に、保護者の皆さんからも温かい声援と拍手が湧き起こっていました。園児だけではなく、未就園児や小学生、保護者レース也大盛り上がり！みんなの笑顔が溢れる一日になりました。



親子ウォーターバトル！みんなでびしょぬれ！！



ぼくたちのかっこいい姿みててね！！

天候に恵まれ開催された運動会。今年は「親子レクリエーション」と題して、それぞれの競技を親子で楽しみながら、一緒に運動する体験を通し、家族の絆を感じられる時間にするを旨として内容を考えました。

園児はもちろん、保護者や卒園児も参加して一緒に同じ体験を楽しみ、最後まで大いに盛り上がった一日でした。

八戸学院
第二しののめ幼稚園

6/27
土曜日



力を合わせて頑張るぞ！！



青空の下、ラジオ体操で準備開始！



歴史を紡ぐ-記念誌が語る歩み-

学校法人光星学院は間もなく70周年を迎えます。

地域の学校として、教育の機会均等と実学教育を掲げて創設され、多様な学びと、個性尊重の教育の場を提供してきました。そして、これまで多くの卒業生を送り出してきました。また、学園構想の夢を描いた中村由太郎初代理事長の「立体的学園構想」は、今日まで受け継がれていますが、これまでの学校経営・運営の記録がつづられた記念誌を紹介したい。

Ⅱ樹海Ⅱ

初めて光星学院のことについて編集されたのは、1983年に発行された法人誌「樹海」です。高等学校が創設され、幼稚園が作られ短期大学が創設され法人の建学の精神と学校建設の夢が一步実現に近づいたころでした。法人誌創刊号に携わった教職員の意気込みを編集後記に探ってみました。

「法人誌『樹海』は、故中村由太郎理事長が生前に企画提起されていたことでありました。それは、故理事長が一代で築き上げ更に躍進を続ける学校法人光星学院という巨木を、民度未開の地とさえいわれた八戸地方を開墾し、植え育てあげたその全貌、そのプロフィール、その動静を広く内外の人々に紹介し、共鳴賛同していただき、ご指導、ご鞭撻を賜りたいという念願からでございました。」

残念ながら、本誌企画準備のただ中で、最後までせばねのたわむことを知らなかった故理事長は、刊行実現の直前に倒れてしまいました。しかしそういう不幸にもめげず、故理事長の意志を継承した編集委員一同は、ささやかな創刊号ではありますが、ここに各位の前に呈上することができました。（後略）（編集後記より）

業は、深夜にまで及ぶことが何度もあった。資料収集の困難さ、過去にさかのぼる検証作業、そして文章の草案。出版業者との一体感は強みで、完成発行の時は一同達成感を味わうことができた。

表紙はスクールカラーの臘脂。未来への夢実現を追求していく意思を表し「晨をめざして」と題した。編集後記を改めて読むと、関わった者として一入感慨深いものがある。

創刊号は、故中村由太郎先生の学院葬の様子が記録になってしまいましたが、学校建設の業績と共に学院創設が地域活性化に大きな意味を持ったことが、有識者はじめ地域の人たちの声と多くの人たちの思いが編まれている。



Ⅱ晨をめざしてⅡ

光星高校が35周年を迎えて、大々的に記念誌制作に取り組んだ。初めての法人全体に係る記念誌編集作

「（前略）この本校三十五年の足跡を辿るという作業は、編集という経験の無い私どもにとって、困難を極め、遅々としたものでした。したがって、本校の発展の歴史として記録をとどめるということを念頭において鋭意努力したつもりですが、その責務を十分果たし得たかどうかいささかの不安があります。恐らく、編集の未熟さからくる内容、表記、その他細部にわたり、ご指摘の点は多々あるかと思えます。しかし、他に比するところ僅かに三十五年の歩みですが、お陰様で三〇〇頁を超える厚さにまとめ上げることができました。（中略）時、奇しくも昭和から平成の時代に変わりましたが、今後この記念誌が本校三十五年の歴史に関わる人々の目に触れる時、多くのご指摘、ご自愛、ご教示をいただくことによって、光星学院高等学校の「晨」が拓かれるものと確信します。」（編集後記より）

この記念誌について当時の中村キヤ理事長は、「心を尽くして神をたたえよ」と題した挨拶で、「（前略）、今創立35周年記念誌を目前にして、感慨一入深く、胸を打たれるものがあります。本校はこの間一度も記念式典を挙げませんでした。十年目は、自動車科を始めとして教育の多様化に踏み切り、生徒数も千名台から二千名台へと増加して内部成長に多忙であり、二十年目は、八戸短期大学を皮切りに野辺地工業高等学校、幼稚園、専門学校、八戸大学と、外への発展に掛かり切り、そして三十年目は、創業者中村由太郎理事長の他界という事で、いずれも機会を失って来たものです。」

本校が、初代理事長の配下にあった二十七年間の八十%の歳月は私が校長を務めました。私が校長を去って五年、川村良三校長を先頭にして、教職員、在校生及び父兄三、五九一名の誠意の限りを尽くして、ここに創立三十五周年記念式典が計画立案されました。私は絶句してただ立ちつくすのみであります。皆さん、ありがとうございます。

創立以来三十有余年を顧みる時、旧約聖書シラ書に記されてありますが、「私は今、主の業を思い浮かべ私の見た所を詳しく語ろう。主の言葉によって御業は成り、御旨のままに定めが実現した」という思いでいっぱいになります。（中略）あの時

あの先生がいなかったらあの問題は解決できなかった、その時その父兄の支援なくしてその困難は乗り切れなかった、（中略）語るには余りある数々の苦心談があります。光星学院の三十五年史は、これに関わった人々一人残らず全員の尊い生命の燃焼による積み上げであります。」



「（前略）同窓会名簿が物語るように、一万、二〇〇〇人を超える卒業生を輩出した歴史には重く深いものがある。傑出した豊富な人材、世界に羽ばたいたスポーツ選手、そして何よりも母校のためにと卒業生がその特技と優れた技能をもって造りあげた光星会館は、本校の歴史の象徴として誇らしげに胸を張っている。（中略）いかなる時代にあっても教育は普遍のものでなければならぬ。生徒一人一人の個性を磨き、適正を伸ばす光星学院高等学校の教育方針、また新たな一歩を

確実に踏み出そうとしている。」という理事・学長・校長・役員幹部の座談会から学院発展の気概を感じ取ることができる。

Ⅱエコトーンの森Ⅱ

最新版の記念誌発行は、平成29年11月12日発行の、「エコトーンの森へ」サブタイトルは「立体的総合学園構想60年の軌跡」と題して、法人60周年記念事業の一つとして発行されました。

いくつかの事業の中に、記念誌作成が組み込まれました。編集後記は「約束された「邂逅」へと題されて茂木典子先生が記しました。

学校法人光星学院創立60周年記念誌のタイトルはⅡエコトーンの森へⅡです。エコトーンとは、生態学で陸域と水域、森林と草原など、異なる環境が連続的に推移して接している場所を指し、移行帯、推移帯とも呼ばれ、生物の多様性が高いことで知られています。タイトルは、全人教育としての「立体的総合学園構想」が60年の歴史を経て、連続的に「新立体的総合学園構想」に結び付き、美保野キャンパスから、より多様性の高い世界へ雄飛する姿を象徴しています。

今回の記念誌は法人としては初めて発刊するものであり、「第二の建学」と「地域との共生」を掲げて、全組織が一体となって取り組み

ました。キーワードになっているのは「新たな全人教育」「リージョナリズムと教育」「多様性と八戸学院らしさ」等です。

（中略）記念誌の編集を終えた今、私たちは、すでに約束されていたと気付かないまま、素晴らしい「邂逅」に向かって歩んできた。そして、今、再び歩みを進めていく。」という思いを強くしています。

木の葉のそよぎ、雲の流れ、風の匂い、人との出会い、遭遇するすべての事象は、約束されている「邂逅」へとつながっていることを、記念誌の編集によって確信しました。編集を進めるに従って、本法人を創立した初代理事長・中村由太郎氏が、階上岳から眺めていた「夢のキャンパス」が、霧の中からくつきりと見えてきたからです。約束された60年後の「邂逅」でした。（編集後記より）





HACHINOHE GAKUIN CAMPUS SPOT

八戸学院ひばり野西高等学校 サッカー部寮 起工式で工事の安全を祈願



写真提供：デリーー東北新聞社

八戸学院野辺地西高校は令和9年4月に五戸町の旧五戸高校に移転し、八戸学院ひばり野西高校に名称を変更して開校する予定です。

この開校に合わせて新築するサッカー部寮の起工式が、令和8年7月3日(金)に行われました。

起工式には、小林副理事長や若宮五戸町長、工事関係者ら15名が出席し、工事の安全を祈願しました。

小林副理事長は挨拶の中で「生徒の視点での工夫が各所に見られ、入寮した生徒は満足すること請け合いだと感じる」と述べました。

寮は木造2階建てで収容人数は92人、完成は来年2月の予定です。

八戸学院ひばり野西高等学校

